

能がいざなう 非日常の世界。

# 第一回 仙臺能



能 観世流

シテ 浅見 重好

まきぎぬ  
巻絹

● 狂言 和泉流

シテ 三宅 近成

ふくろうやまぶし  
梟山伏

2023年11月23日[木・祝]

於：日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)  
シアターホール

開演：14:00 [開場：13:00]

チケット料金：S席 4,000円 / A席 3,000円 / B席 2,500円

※全席指定。当日各500円増し。車いす席を希望される方は下記問い合わせ先までご連絡ください。

【先行発売】7/21(金) 12:00(正午)より 7/25(火) 23:59まで

※5日間限定。どなたでもお買い求めいただけます。インターネット・コンビニ(下記★)のみの発売となります。

【一般発売】8/17(木) 10:00より ※下記プレイガイドでの発売となります。

- 仙台市市民文化事業団 総務課 [チケット電話予約] ☎022-727-1875(平日 9:30~17:00)
- 日立システムズホール仙台[1階事務室] (9:30~19:30/休館日除く)
- 仙台三越 ● 藤崎 ●★チケットぴあ<Pコード:519-219> ●★ローソンチケット<Lコード:21548> ●★イープラス

チケット販売情報

《公演に関する問い合わせ》 せんだい演劇工房 10-BOX TEL.022-782-7510

《主催》 仙台市能楽振興協会・仙台市・公益財団法人仙台市市民文化事業団



<https://www.gekito.jp/>

# 第一回仙臺能

令和五年十一月二十三日(木・祝) 午後二時開演  
於 日立システムズホール仙台 シアターホール

## 「お話し」

話し手 木原 康之

## 狂言

## 梟山伏

シテ(山伏) 三宅 近成

アド(兄) 前田 晃一  
アド(弟) 金田 弘明

後見 三宅 右矩

## 仕舞

## 淡路

木原 康之

大槻 崇充  
岡庭 祥大  
藤波 重孝  
金子 聡哉

## 休憩十五分

## 能

## 巻

ツレ(使者) 木原 康太  
シテ(巫女) 浅見 重好

## 絹

ワキ(勅使) 殿田 謙吉

間(従者) 三宅 右矩

後見 野村 昌司  
藤波 重彦

地謡 新江 和人 川原 恵三  
金子 聡哉 藤波 重孝  
小檜山 浩二 岡庭 祥大

## 附 祝言

終了予定時間 午後四時頃

### あらわし 狂言 和泉流 梟山伏 ふくろうやまぶし

とある処に住む兄弟。山から帰ってきて以来弟の様子がおかしい。これは「物の怪」に取り憑かれたに違いないと考えた兄は、山伏のもとを訪れ、弟の容体を診てくれるように頼む。山伏が弟の様子を見ながら、一心に祈りを始めると、弟はうつろな目つきで急に奇声を発する。



山伏が兄に訊ねたところ、弟は山に入ったときに梟の巣を下ろしイタズラをしたようだという話を聞き、さてはその為に梟が取り憑いたのだらうと、山伏は梟の嫌う鳥の印を結び、さらに懸命に祈る。しかし一心不乱の祈りもむなしく、弟は「ホーホー」と鳴き続け、具合が良くなるどころか症状はますますひどくなるばかり、さらに兄までもが「ホーホー」と鳴き出す始末。「ホーホー」と泣き続ける兄弟に扶まれ、祈る山伏もついに力尽きて果てて...

梟の「ホーホー」という鳴き声が印象的な狂言であり、その鳴き声が入り込んでいく様が面白く、また本曲の山伏は、在所に居住して祈禱や古い生業としており、依頼を受けた際には話を重々しく話して現れ、もつたいぶつて祈禱を始めるが、そのいかめしさに反し、後半になつて祈禱の失敗に狼狽する有様の落差も見どころである。

### あらわし 能 観世流 巻絹 まきぎぬ

時の帝が不思議な夢を、覧になり、千足(※)の巻絹を諸国から集めて、熊野三社に奉納するようにとの宣旨が下る。その為に熊野にて勅使(ワキ)が、国々から巻絹の集まつてくるのを取りまどめているが、都からの分だけが未だに到着しない。今や遅しと待っている勅使は従者(狂言)に、都の使者が着いたらすぐに知らせようように命じる。



一方、都からの巻絹を奉る使者(ツレ)は、そうとは知らず、初めての紀伊国(和歌山県)下りでありまた大切な勅命でもあるので緊張して旅を急ぎ熊野に着くと、音無天神に参詣する。折からの冬梅の香りに心を惹かれ、心の中で密かに一首の歌を詠み、それを神に手向けた後、勅使のもとへ到着する。勅使は、使者の遅参の罪を責め、懲罰として従者に命じて使者を縛り上げる。そこへ一人の女(シテ)が現れ、「その者は昨日音無天神に詣で、和歌を手向けた者であり、神も納受されたのだから戒めの縄をとくように」という。女は音無天神の神霊が憑り移った巫女だったが、勅使は賤しい身で歌など詠める筈はないと神慮を疑う。そこで巫女は、使者にその時に詠んだ和歌の上の句を詠ませ、自分がその場で下の句を続けて詠む。「音無にかつ咲きそむる梅の花」句はざりせば誰か知るべき」という一首を証拠に、使者は縄を解かれ自由の身となる。その後巫女は和歌の徳、経の威力を説き、また勅使の求めに応じて祝詞をあげ、神楽を舞ううち神がかりとなり、熊野権現の神徳を語る。やがて神は去り、巫女は狂いから覚め正気に戻る。

※一足とは反物二分(約22m)、千足約2200m(約22km)

# 第一回 仙臺能

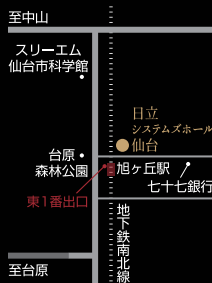
令和5年、第40回となる「市民能楽講座」は、「仙臺能」と名称を改めます。これからも仙台で、皆さまに親しまれる能楽公演をお届けします。

能楽は650年以上にわたって継承されてきた世界的にも稀有な「音楽劇」であり、日本の歴史や文学と密接に関わりながら、ほかの芸術文化や芸能、ひいては日本人の心象形成に多大な影響を与えてきた芸能です。そして仙台も、藩政時代から能楽が盛んに行われてきたまちです。仙台市能楽振興協会では現在も能の各流派と狂言、囃子方が、流派を超えて互いに協力し合いながら、能楽の普及と振興に努めています。

11/23(木・祝)

開演14:00(開場13:00)

日立システムズホール仙台  
[仙台市青年文化センター]  
シアターホール  
仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5



《地下鉄をご利用ください》  
仙台市地下鉄南北線「旭ヶ丘駅」下車、  
「東1番出口」より徒歩約3分。